

# 山都町包括医療センター そよう病院が担う 役割について

令和5年11月 山都町包括医療センターそよう病院

## 【そよう病院の診療活動】

○山都町における唯一の公立病院、救急告示病院、僻地医療拠点病院として、急性期医療のみならず、回復期医療、僻地医療（3カ所の無床診療所運営）、在宅医療（在宅看取りを含む）、訪問看護、地域包括ケア、保健事業に取り組み、高齢化率県内1位である地域医療を担う病院としての役割を果たしている。

○町として県内最大の面積である山都町のみならず、近隣の阿蘇郡の一部、宮崎県の一部を含めた広範な地域の医療を担っている。



## 【そよう病院の現状と課題】

### 《基本理念》

公立病院、救急告示病院、へき地医療拠点病院として、患者様に信頼される良質な医療を継続的に提供し、地域住民に親しまれる病院を目指します

### 《基本方針》

1. 患者様中心の全人的医療を確立する
2. 全職員常に自己研鑽に努め、医療水準の向上に努める
3. 医療環境を常に整備し、安心・安全の医療水準を提供する
4. 合理的かつ効率的な病院経営に努め、自立した経営基盤を確立する
5. エンゲージメントの向上に努め、職員が自主性と創造性を持つことで、職員と病院がともに成長できる職場を目指す

### 《標榜診療科目》

内科、外科、総合診療科、循環器内科、代謝内科、脳神経内科、小児科、精神科、心療内科、消化器外科、整形外科、小児外科、眼科、歯科、歯科口腔外科、リハビリテーション科（理学療法、作業療法）、透析

## 【そよう病院の現状と課題】

### 《診療実績》

許可病床数：57床（急性期）

### 《届出入院基本料》

急性期一般入院料 6 （47床）

地域包括ケア入院医療管理料 2 （10床）

### 《実施政策医療》

救急告示医療機関

へき地医療拠点病院

熊本県地域医療拠点病院

熊本大学病院群研修協力病院

地域包括医療・ケア認定施設

日本神経学会教育関連施設

日本内科学会認定制度連携施設

感染対策・診療・検査医療機関

新型コロナウイルス感染症重点医療機関

訪問看護ステーション

## 職員数

常勤医師	7名	臨床工学技士	2名
歯科医師	1名	理学療法士	5名
看護師	37名	作業療法士	1名
〔看護師中、4名は訪問看護ステーション勤務〕			
准看護師	2名	歯科衛生士	2名
薬剤師	1名	管理栄養士	1名
診療放射線技士	2名	調理師	3名
臨床検査技師	2名	事務職員	7名
		会計任用職員	8名
			合計 81名

他に、嘱託職員、派遣職員等 20名

○5 疾病：当院での対応が困難な疾病については、熊本圏域の高度急性期病院、専門病院と連携を取って対応している。

＜がん＞

緩和医療を中心に行い、化学療法は高次医療機関と連携して行っている。

＜脳卒中＞

2名の脳神経内科専門医が担当している。

＜急性心筋梗塞＞

熊本大学病院から非常勤医師2名の派遣を受けている。

＜糖尿病＞

熊本大学病院から非常勤医師1名の派遣を受けている。

＜精神疾患＞

益城病院から非常勤医師1名の派遣を受けている。

他

＜新型コロナウイルス感染症＞

検査、外来診療、ワクチン接種、確保病床への入院患者を受入れを行っている。

＜腎不全＞

非常勤の専門外来と11床を利用した人工透析を行っている。

## ○5事業：

### <救急医療>

昭和58年に救急告示病院の指定を受け、地域における1次・2次医療の中心的医療施設としての役割を果たしている。

### <災害時における医療>

災害時における関連機関との調整を円滑に行っており、防災訓練を定期的に実施し、公立病院としての万全な医療資源の提供に努めている。

### <へき地の医療>

県より、へき地医療拠点病院の指定を受け、へき地医療拠点病院として3箇所へのき地診療所に医師を派遣している。

## 他

### <在宅医療>

院内に訪問看護ステーションを併設し、病院と密に連携して、患者様と家族の意向に沿った訪問医療を提供している。

### <予防医療>

学校医、施設の嘱託医を担当し、健診、人間ドックを行っている。

## 《自施設の特徴》

救急告示病院（熊本県告示第125号：昭和58年指定）

熊本県へき地医療拠点病院（平成15年4月指定）

熊本大学医学部附属病院群研修協力病院

地域包括医療・ケア認定施設（認定番号000195）

附帯施設：北部診療所／井無田診療所／緑川診療所／訪問看護ステーション

○一般病床については急性期機能57床の急性期病院であると同時に、救急医療を中心に、回復期医療、透析医療、へき地医療、在宅医療、訪問看護、地域包括ケアにも取り組んでおり、地域医療を担う病院としての役目をはたしている。

○平成18年度から上益城郡内で唯一の救急告示病院となっており、救急車搬入件数も年間で210件を超えている。地理的状况により、山都町救急医療圏のみならず、阿蘇医療圏（高森町）、宮崎県西臼杵医療圏（五ヶ瀬町）からの救急車も受入れている。

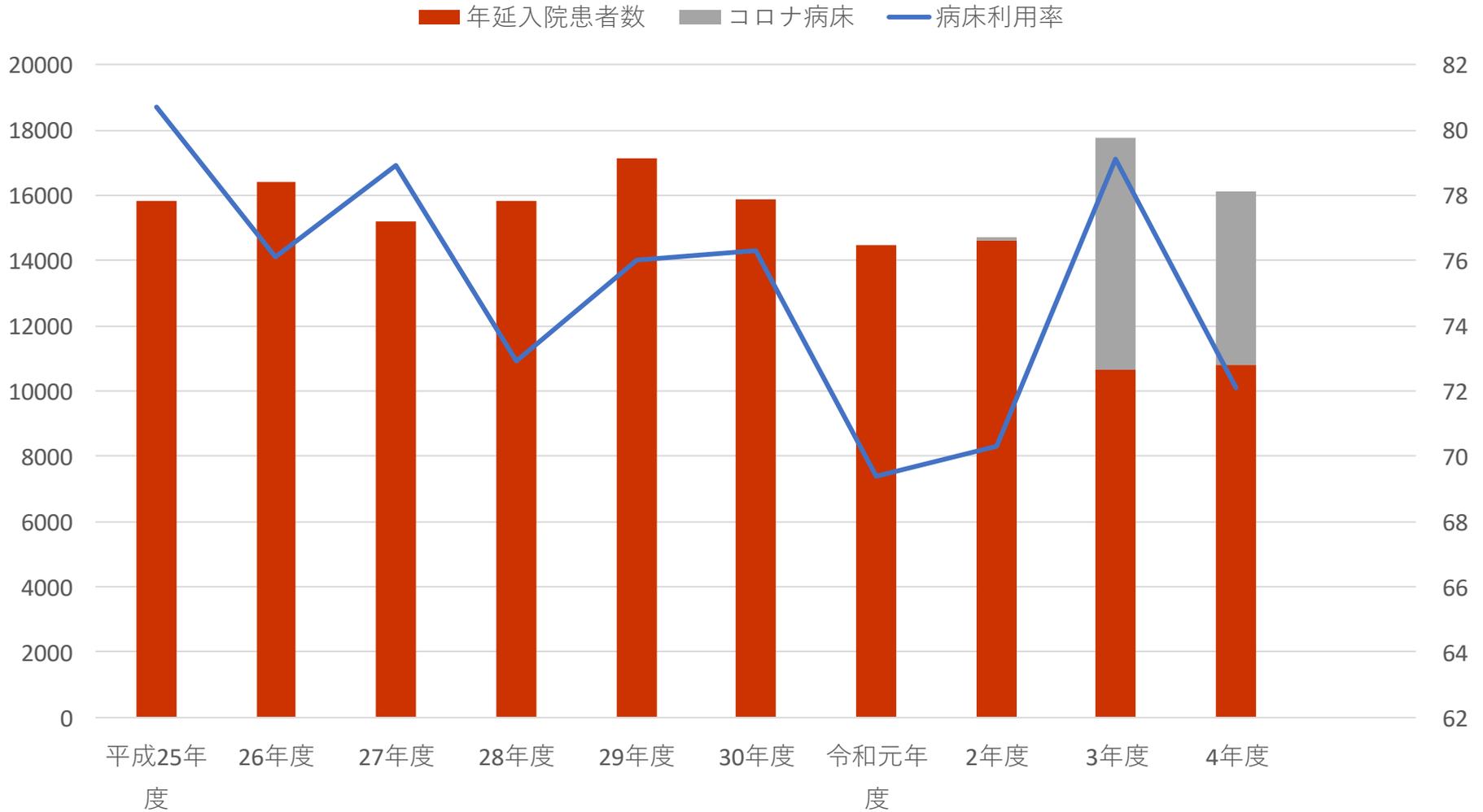
○救急時のへりの発着場として病院に隣接したグラウンドを活用しており、病院間の搬送の他、登山による遭難者などの受入にも活用している。

# 1 現状と課題

8/18

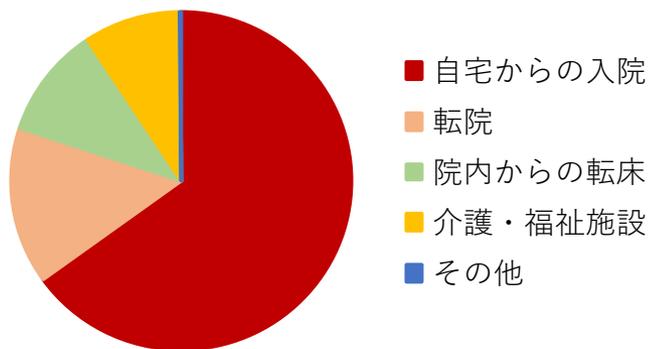
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入院延患者数	(人)	15,866	14,479	14,635	10,657	10,791
1日平均入院患者数	(人)	43.5	39.6	40.1	29.2	29.6
外来延患者数	(人)	44,019	42,915	41,790	42,711	42,755
1日平均外来患者数	(人)	160.5	158.9	154.0	158.1	158.3
病床稼働率 (コロナ空床を除く)	(%)	76.3	69.4	70.3 (70.7)	51.2 (79.1)	51.9 (72.1)
平均在院日数	(日)	19.4	18.3	19.7	15.7	16.3
				令和3年3月29日新型コロナウイルス病床20床確保(空床病床含む)		令和4年5月9日新型コロナウイルス病床16床へ変更(空床病床含む)

## 年延入院の推移

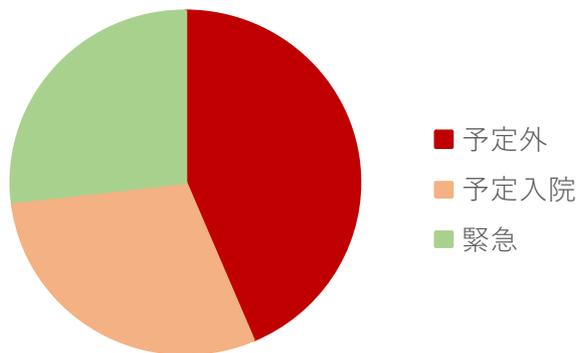


## 入退院分類

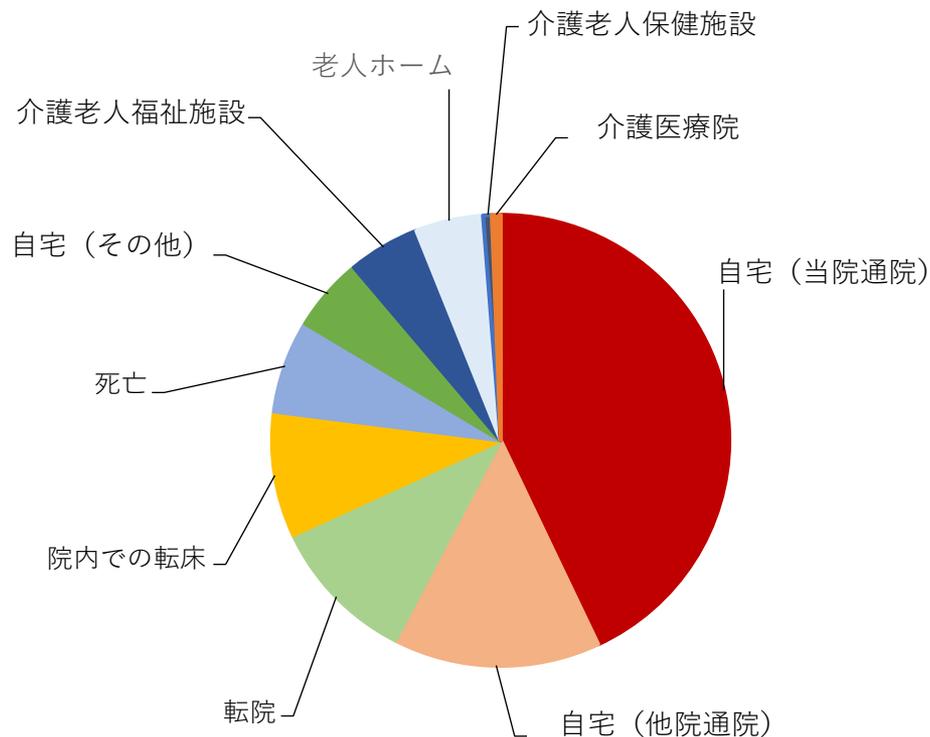
### 入院経路



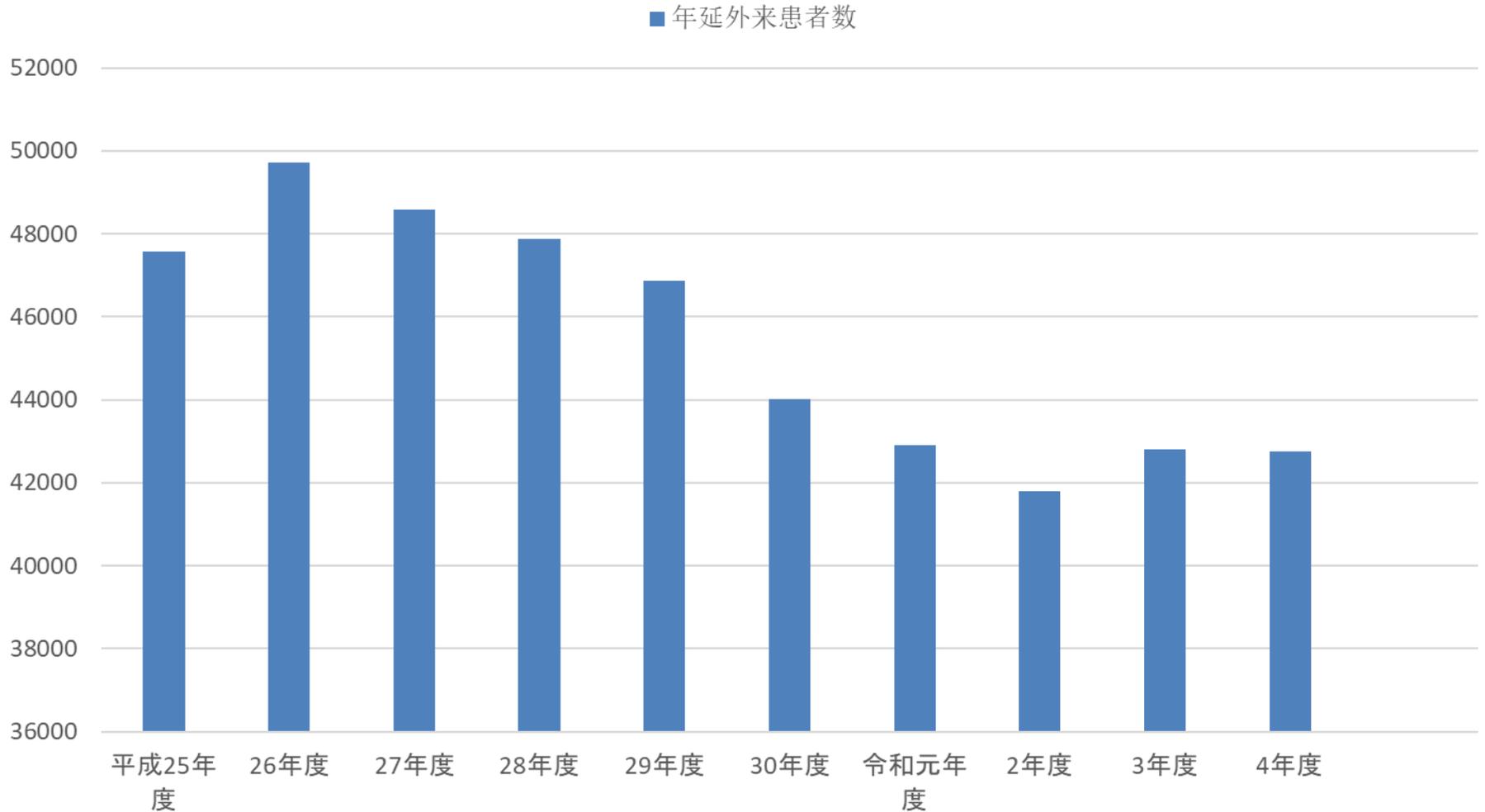
### 入院区分



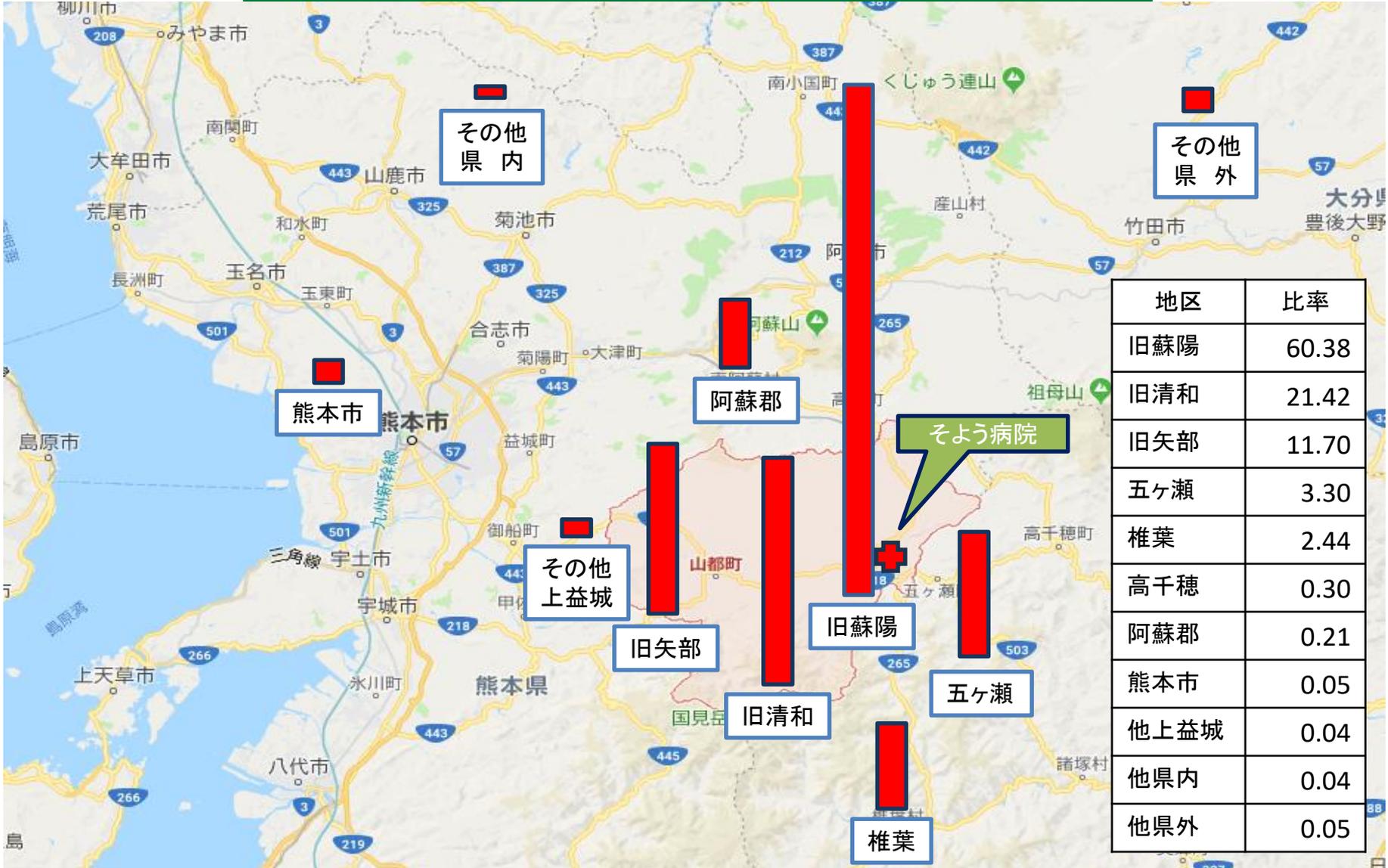
### 退院先



## 外来患者数の推移



## 地域別外来受診患者



## ○救急医療提供実績

年 度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
時 間 外 患 者 数	(人)	2,624	2,535	1,777	1,930	1,864
入 院 患 者 数	(人)	232	152	151	136	103
比 率	%	8.8	6.0	8.5	7.0	5.5
救 急 車 搬 入 患 者 数	(人)	237	225	200	212	220
入 院 患 者 数	(人)	103	71	89	76	62
比 率	%	43.5	31.6	44.5	35.8	28.2

## ○救急患者数の推移

年 度	H 3 0	R 1	R 2	R 3	R 4
救急患者数	237	225	200	212	220
救急車搬入数	2,624	2,535	1,777	1,930	1,864
へり搬送数	6	5	8	6	5

## 【新型コロナウイルス感染症対策】

○新型コロナウイルス感染症重点医療機関として検査、外来診療、入院病床確保、ワクチン接種などを実施している。

### 検査

- ・行政検査（PCR検体採取）
- ・感染症外来の設置
- ・リモート診療の開始
- ・抗原検査（定性、定量）
- ・当院での核酸検査（TRC検査）
- ・自費診療によるTRC検査
- ・流行時の特措法事業検査
- ・ワクチン検査パッケージ検査
- ・町医療機関との連携

### ワクチン接種

- ・医療従事者（当院及び近隣の医療機関）
- ・高齢者集団接種
- ・65歳未満集団接種
- ・高齢者施設入所者
- ・個別接種

### 病床確保／治療

上益城郡で最初、単一病棟での運用、一般診療／救急診療／透析などとの両立、中等症Iまでの受入、5類移行後も確保病床を維持（5/8～9/30）、その後も公的病院として患者受入

## ○在宅医療提供実績

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
訪問診療	(人)	54	73	78	85	121
施設診療	(人)	1,264	1,297	1,391	1,609	1,418
往診	(人)	17	15	10	24	27
看取り患者	(人)	15	24	17	33	27
訪問看護	(人)	2,862	3,264	2,639	3,111	3,323
訪問リハビリ	(人)	21	12	18	13	90
						R4.11.1介護訪問 リハビリ開始

○公立病院として町の保健衛生担当課と連携し、町が目指す「山の都で生涯にわたり日々を健康に暮らし、安心して必要な医療が受けられる体制づくり」を進めている。

- ・地域ケア会議を、地域内の老人福祉施設・介護施設、社会福祉協議会、行政とともに毎月開催している。

○山都町の高齢化率は50.3%（令和2年の国勢調査）であり、今後の町の人口は減少していくが、高齢者人口は緩やかな減少と予想されている。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、山都町の2035年の高齢者比率は6割を超えると予想されている。

○交通機関の不備を考慮した透析治療の実施

	H30	R1	R2	R3	R4
実施延人数	3,917	3,901	4,032	3,732	3,640

## ○医師・医療スタッフの確保

- ・常勤医師においては、自治医科大学卒医師1名と、熊本大学地域枠医師2名により標準医師数の確保、宿日直許可の要件を満たしている。
- ・医療スタッフの中では、特に薬剤師、看護職員の確保に取り組んでいる。

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
標準医師数	5.76	6.59	6.43	5.57	4.71	4.73
常勤医師数	4	4	4	5	7	7
非常勤医師数 (常勤換算)	2.86	2.53	3.13	2.97	2.99	2.94
	・自治医大卒2人	・自治医大卒2人	・自治医大卒2人	・自治医大卒2人	・自治医大卒2人 ・地域枠1人	・自治医大卒1人 ・地域枠2人

## 【そよう病院の教育活動】

○医学生、初期研修医、後期研修医に対し、地域医療と総合診療教育を行っている。

### 【教育活動】

(2022年度実績)

- 熊本大学医学部学生（特別臨床実習）
- 初期研修医  
（熊本大学病院、熊本赤十字病院、熊本市民病院、くまもと森都病院）
- 後期研修医／専門修練医
- 研修施設資格獲得
  - 日本内科学会認定制度連携施設
  - 日本神経学会准教育施設
  - 日本プライマリ・ケア連合学会新家庭医療専門医制度研修病院

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

○山都町における唯一の公立病院・救急告示病院として、山都町のみならず、阿蘇郡の一部、県境にあるため宮崎県の一部を含めた地域の医療を担うとともに、山都町が目指す、安心して必要な医療が受けられる体制づくりに貢献する。

- ・ 救急医療の継続
- ・ 1次医療から回復期までの地域包括ケア医療の提供
- ・ へき地診療所の診療継続
- ・ 交通機関の不備を考慮した透析治療の実施
- ・ 町から委託を受けた健診・予防接種等の保健事業の推進
- ・ 感染対策、診療・検査医療機関としての機能維持

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

#### ○在宅医療・地域包括ケアシステム

- ・ 地域の高齢化に対応した訪問診療・訪問看護・訪問リハビリの継続
- ・ 地域ケア会議の継続と充実
- ・ 地域包括ケアを支える後方支援病院としての役割を維持

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2023年(令和5年)	2025年(令和7年)案
高度急性期		
急性期	57	57
回復期		
慢性期		
その他		
合計	57	57

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

そよう病院は昭和20年に馬見原町外六ヶ町村により開設され、以来70年余り、公立病院として無医村地区の解消、地域医療の担い手として活動を続けてきた。

昭和58年には救急告示病院の指定を受け、地域における1次・2次医療の中心的医療施設としての役割を果たしてきた。平成17年に矢部町・清和村・蘇陽町が合併して、熊本県の町として最大面積を誇る山都町における町内唯一の公立病院・救急告示病院として急性期医療を担っている。

今後もへき地医療拠点病院・救急告示病院として、救急医療を含めた地域医療を守っていくとともに、求められる在宅医療への支援・地域包括ケアシステムの後方支援病院としての役割を担っていく。

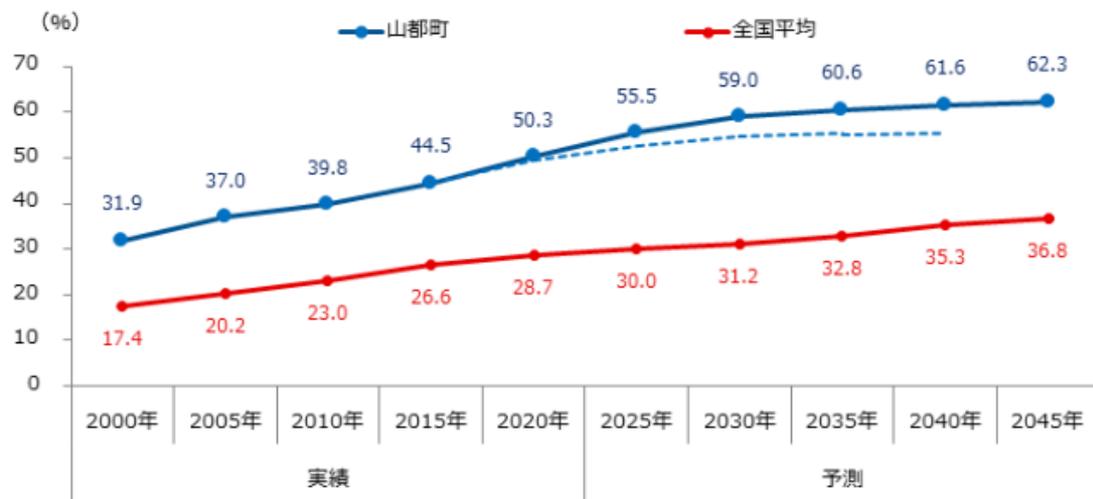
### 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その3】

○2040年の山都町の高齢者比率は県内最高の61.6%と予測されている。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、回復期に対応した病床機能へと見直すことも考えられるが、地域の急性期医療を担うことで、在宅復帰に向けた地域包括ケア病床10床での運用を継続する。

山都町の高齢化率の推移



※高齢化率：総人口に占める65歳以上の人口割合(%)、年齢不詳を除いて算出

### 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【②診療科の見直し】

	現時点 (2023年4月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、外科、総合診療科、 循環器内科、代謝内科、 脳神経内科、消化器外科、 整形外科、小児外科、小児科、 眼科、精神科、心療内科、 歯科、歯科口腔外科 リハビリテーション科、透析	維持	地域内で唯一の公立病院、 救急告示病院、へき地医 療拠点病院としての機能 維持
新設	無し	無し	
廃止	無し	無し	
変更・統合	無し	無し	

### 3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(令和4年度実績)	2025年
①病床稼働率 (コロナ空床を除く)	72.1%	<u>80.0%</u>
②紹介率	3.9%	<u>10%</u>
③逆紹介率	21.6%	<u>25%</u>

## 3 具体的な計画

### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

#### 【取組みと課題】

- 病院機能の中長期的進歩と社会的価値の向上
- 医師及び医療スタッフの人材確保に向けた取組みの強化。
  - ・研修の充実と人材育成、研修医、医学生の受け入れ
  - ・病院ホームページの募集サイトの充実と関連する募集サイトへの登録強化による情報発信
  - ・熊本県等への医師派遣の働きかけの継続
  - ・医療スタッフの人脈の活用と、出身学校との連携強化
- 在宅医療に関して、訪問看護ステーションと、訪問リハビリ強化のために、人員配置等の充実を図る。
- 福祉関連施設や行政との連携を強化し情報の共有を進め患者様、ご家族に選ばれる病院を目指す。
- 令和6年4月より、隣接する五ヶ瀬町立病院が介護医療院への入院機能転換予定であるため、地域連携の強化と、病院機能維持により当院において急性期患者を多く受け入れていく。